

な わ し ょ う つ う し ん

暁小通信

令和7年度 第15号

令和8年 2月27日発行

四條暁市立四條暁小学校

校長 香村 紀子

れいわ ねんど しじょうなわてしょうがっこう まな ちから
令和7年度 四條暁小学校の学びの力を

ぶんせき
分析しました！

しじょうなわてし こんねんど つぎ ちょうさ じっし
四條暁市では今年度、次のような調査を実施しました。

1. NINO (認知能力検査) <市実施> 対象学年 2年生
2. CRT (標準学力検査) <市実施> 対象学年 3・4年生
3. 全国学力・学習状況調査 <国実施> 対象学年 6年生
4. すくすくウオッチ <大阪府実施> 対象学年5・6年生



これらの調査の結果をもとに、今年度の取組みについて教職員で次のように分析しました。☆印は強みまたは成果と捉えること、★印は課題と捉えること、として記載します。

☆「るるる」(やってみーる・ねばーる・つながーる)の取組みが、様々な取組みを続けている中で子どもたちにも認識され、どの調査においても無回答率が低い傾向が見られた。もちろん回答を見いだせない問題は無回答率が高いものが見られたが、まずはやってみようとする姿勢が育ってきていると言える。

☆例えば、全国学力・学習状況調査の理科において、「電磁石の強さの変化」「身の回りのものが電気を通すか、磁石につくか」「乾電池の直列つなぎ」など、生活に身近にあるものに関する知識を問う問題では、定着率が高かった。他教科や他分野でも、身近な題材や物、事象については興味をもって学ぶことができ、定着率も高い傾向が見られた。

☆★中学年では、強みといえる文字(ひらがな・カタカナ・漢字)の学習について、高学年になると全体の文章の中で意味を捉え、適切な漢字や言葉を活用することに課題が見られた。

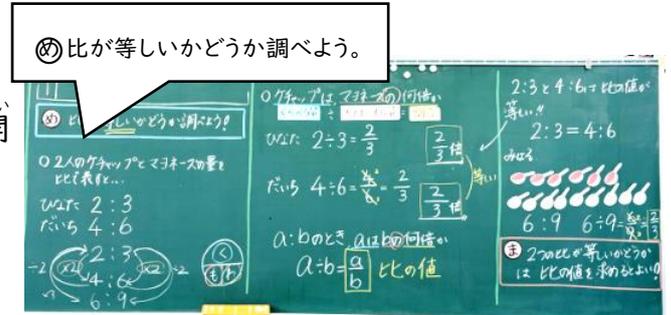
★問題文など長い文章を的確に読み取り、求められた設問に即して表現することが苦手な児童が多い。

★児童アンケートでは、「進んで」「自分から」「積極的に」など、主体的な姿勢を尋ねられると、肯定的回答が少ない傾向が見られた。

このような分析を生かしながら、現在小では様々な取組みを進めています。

○分かる授業の工夫

- ・授業のめあてを子どもたちと共有し、子どもたちが主体となって課題解決することで学びを進める授業展開
- ・子どもたちの学びを定着させ、自分事に引き寄せる振り返りの活用。



○「チャレンジルーム」の開室

6年教室の隣に「チャレンジルーム」を設置しています。

だれでもそこで学習することができます。今は、業間休みと昼休みに

オープンしています。授業でわからなかった問題をききにくる子、課題として置かれている算数的なゲームを友だちとする子、低学年に教えている高学年の子、などなど自分から「チャレンジルームに行ってみよう!」という気持ちで集まってきています。

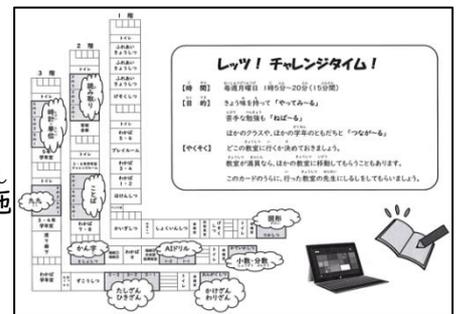
③ 2つの比が等しいかどうかは、比の値を求めるとよい!

2学期末までで来室した子どもの数は、のべ約3800人でした。

○「チャレンジタイム」の実施

1月19日(月)の13:05~13:20に第1回チャレンジタイムを実施。

以後、毎週1回、基本的に月曜日の昼休み前に、チャレンジタイムを実施しています。



これは、課題別に学びの場をつくり、子どもたちが「自分で」どんな課題をどの教室でするのか選択し、決めた場所へ移動し学習する、という取組みです。実施前、子どもたちは「どこに行こうかな?」「図形、行ってみようかな」などと言いながら、それぞれの教室を見回っていました。

第1回目は、思っていた以上に「自分で」決めた課題の教室に一目散に移動し、課題に真剣に取り組む子どもたちの姿がありました。初めてのことで、なかなか課題を決められず迷っている子どもたちも。私たちはそれも経験だと思っています。迷っている子どもたちには声をかけて一緒に考えるようにしています。

このように「学ぶことに興味をもちながら取組んでほしい」「自分の力に自信をもって挑戦してほしい」

「学んで楽しい!を経験してほしい」という願いをもって、取組みをすすめています。

学習が苦行ではなく、新たなことを知る楽しさや挑戦する楽しさであることを実感し、その上で自分の視点を広げていくことのできるワクワク感につながる取組みとして、子どもたちに伝えていきたいと思っています。